

東から

にいがた酒の陣2016

新潟の個性豊かな 地酒約500種を 多彩な料理と味わおう！



佐渡の尾畑酒造にもファンが行列を作っていた。

**酒蔵数・日本酒消費量
どちらも新潟県が1位**

2004年に、新潟県酒造組合50周年を機に始まった日本酒イベント「新潟淡麗 にいがた酒の陣」。回を重ねるごとに規模が大きくなり、現在では2日間で全国から10万人以上が訪れるまでに成長しているという。酒どころ新潟の大切なプロモーションイベントとなっているのだ。

新潟は「淡麗辛口」と称される飲み口のきれいな酒が多い。清酒醸造の指導、試験、研究に特化した新潟県醸造試験場の存在や、長い歴史を持つ越後杜氏の活躍、酒造好適米への取り組みなど、業界全体で新潟清酒の価値を高めてきた成果だろう。



酒の愛好家がいっぱい。若い女性が多い。

新潟県には約90の酒蔵があり、この数は全国1位だ。酒の生産量は兵庫、京都に次ぐ3位。兵庫と京都の両県で50%近くのシェアとなっており、新潟清酒は10%程度だから、やはり伏見や灘ブランドは強い。新酒鑑評会の金賞受賞ラッキンギは福島に次ぐ2位だ。酒蔵の数と並び、新潟がどこにも負けないのが消費量。1人あたりの年間の日本酒消費量ラッキンギは14・6リットルと堂々の1位。全国平均が5・7リットルであるから、実に3倍近くを飲み干している計算になる。真正正銘、酒飲み県の新潟である。

**今年も約12万人が来場
新潟清酒は絶大な人気**
新潟の酒蔵が自慢の酒を持

ち寄るこのイベントは、今年で12回目となる。2日間の来場者数は延べ12万2652人。今年も過去最高の記録を更新した。

入場は無料だが、試飲チケット（前売2000円、当日2500円）を購入すれば、各蔵元の銘酒を試飲できる。蔵の試飲ブースには法被姿の蔵人がおり、試飲用のお猪口にお酒を注いでくれる。同じ蔵でも本醸造、純米酒、吟醸など数種類が用意されているので、あれこれ試しているとあっという間に酔いがまわる。気に入った酒はその場で購入することもできるので、会場まみにして飲んでいくグルー



廃校になった小学校で醸した尾畑酒造のリキュール「学校蔵」。



蔵人たちが自慢の酒を注いでくれる。酒造りの話もじっくり聞ける。

プも多い。会場でしか販売しない限定酒や、搾りたての新酒を用意している蔵も多く、日本酒ファンにはたまらないイベントだ。

以前は急性アルコール中毒になって救急車で病院へ搬送される人もいて、主催者はペットボトルの水を配布するようになったという。今回も医務室は設置されていた。

新潟の酒は、フルーティな日本酒、肉料理に合う日本酒、発泡する日本酒など、同じ日本酒でも実に個性豊かだ。純米酒や吟醸酒の高いクオリティも、舌で実感することができる。飲んでえにはたまらないイベントだ。

(地域構想研究所取材班)